

ダイライト軒天羽目板

製品仕様・物性表

ダイライト軒天羽目板

		ダイライト軒天羽目板
不燃性(不燃材料)		NM-4133
比重	★	0.60
重量	kg/枚(kg/m ²)	2.0(7.2)
※	吸水率 %	15以下
※	厚さ変化率 %	10以下
※	長さ変化率 %	0.20以下

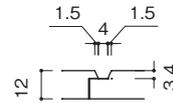
★自社測定値であり、数値を保証するものではありません。

※気乾状態→吸水24hrの変化率

■目地形状図

単位:mm

勘合部



短辺継手



使用可能部位

木下地および鋼製下地の軒裏、および軒裏に準ずる部位



●準耐火構造認定は取得しておりません。ご注意ください。



●RCへの直張り、鉄骨への直張りはできません。絶対にしないでください。

施工方法

■補修部材 品番・容量表

タッチアップペン	品番	容量	入数
〈クリアベージュ〉	EQ1392-1MJ	13ml/本	1本/梱
〈ティーブラウン〉	EQ1392-1MT		
〈トープグレー〉	EQ1392-1MG		
〈ダルブラウン〉	EQ1392-1MW		
〈オフブラック〉	EQ1392-1MK		

補修シール	品番	枚数	入数
〈クリアベージュ〉	EQ1393-1MJ	528枚/梱	3シート/梱 (176枚/シート)
〈ティーブラウン〉	EQ1393-1MTN		
〈トープグレー〉	EQ1393-1MG		
〈ダルブラウン〉	EQ1393-1MW		
〈オフブラック〉	EQ1393-1MK		

※補修シールの〈ティーブラウン〉はダイライト軒天45・30と色調が異なります。混用しないでください。

■施工部材 品番・サイズ表

連結リングネイル	品番	サイズ	入数
〈クリアベージュ〉	EQ1390-1MJ	φ2.2×40mm	2巻/梱 (200本/巻)
〈ティーブラウン〉	EQ1390-1MT		
〈トープグレー〉	EQ1390-1MG		
〈ダルブラウン〉	EQ1390-1MW		
〈オフブラック〉	EQ1390-1MK		

鋼製下地用カラービス	品番	サイズ	入数
〈クリアベージュ〉	EQ1394-1MJ	φ3.5×25mm ラッパ頭	1,000本/梱
〈ティーブラウン〉	EQ1394-1MT		
〈トープグレー〉	EQ1394-1MG		
〈ダルブラウン〉	EQ1394-1MW		
〈オフブラック〉	EQ1394-1MK		

木下地用カラービス	品番	サイズ	入数
〈クリアベージュ〉	EQ1395-1MJ	φ3.8×41mm ラッパ頭	500本/梱
〈ティーブラウン〉	EQ1395-1MT		
〈トープグレー〉	EQ1395-1MG		
〈ダルブラウン〉	EQ1395-1MW		
〈オフブラック〉	EQ1395-1MK		

ダイライト軒天羽目板

必ずお守りいただきたいこと

天井材・
軒天井材

【運搬・搬入・堆積・在庫に関する注意】

- リフトを使用する場合は、一山ごとに作業し、ツメで損傷しないように十分注意してください。(ツメで製品を押ししたり、ひきずらないようにしてください。)
- 手おろしする場合は、欠け防止のため取扱いに十分注意して2名以上でおこなってください。
- 製品を積置きする場合は、「ダイライト軒天羽目板」の変形を防ぐため、直接地面と接しないように台木の上にさらに敷板をのせ平置きしてください。(台木は、高さのそろったものを使用し600mmに1本以上の割合で、均等に4本以上入れてください。)
また、雨、直射日光が当たらないようにシート掛けをおこなってください。
- 表面のキズや汚れを防止するために、最上面の板は裏がえしにしてください。
- 塗装品、化粧シート品は表面にキズや汚れがつかないように、注意してください。
- 原則は屋内に保管し、軒先に置く場合は雨、直射日光が当たらないように必ずシート掛けしてください。
- 1パレットあたり20梱(12枚/梱)とし、パレットは2段積以下としてください。

【施工に関する注意】

- 次ページ以降の施工要領を厳守してください。
- SDSのご請求は、弊社営業担当者にお問合せください。

【廃棄に関する注意】

- ダイライト軒天羽目板を廃棄するときは、「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に従い適正に処理してください。詳細は各自自治体にご確認ください。
- SDSのご請求は、弊社営業担当者にお問合せください。



【施工上の警告】

- 高所で作業する場合は、しっかりとした足場を組み、通行部分の邪魔なものを片付けてから作業してください。
- 高所で作業する場合は、必ず落下防止措置を取ってから作業してください。
- 物干しフック、防犯カメラ、照明器具などを取り付ける場合は、野縁などの下地に取り付けてください。野縁ではなくダイライト軒天羽目板に固定した場合、落下する危険性があります。

施工上の留意点



【施工に関する注意】

- 木製野縁または建築用鋼製下地にて下地を組んでください。鉄骨やRCへの直張りはできません。
- 雨水などが伝わったり、高温や多湿などの環境にさらされると、シミや汚れ、コケ・カビ・藻類の発生、変質または製品の脱落を招く恐れがあります。
- 軒天材表面の乾燥を確保できる工夫と定期的な点検をおこなってください。



以下の部位、箇所には施工しないでください。

- ・直接雨などの水がかかる部位
- ・氷雪・ツララなどがダイライト軒天羽目板まで廻り込む恐れがある箇所
- ・高温にさらされる部位・常時多湿になる部位などの特殊な環境にさらされる部位
- ・軒天井ボード以外(破風板・鼻隠し・外壁・外壁に類する部位・ベランダ床等)

- 化粧面を汚したり、キズをつけないように注意してください。



ダイライト軒天羽目板をカットする場合は、鋸刃は超硬チップソーとし、防塵フード付き丸鋸を使用してください。



カットの際には防塵マスクを着用してください。また、カットの際に出る粉塵等が肌に付き、かゆくなることや、まれにありますが長袖の服を着用してください。万一かゆくなった場合は、かかずに水で洗い流してください。

- 上向きで作業する場合は、目にごみが入らないように保護メガネを着用してください。
- カーブビスで施工する際は、スクリウドライバやボードドライバを使用してください。
インパクトドライバで施工すると表面シートが破れて仕上がりが悪くなる場合があります。
- ダイライト軒天羽目板の長辺を切り落とす場合は、施工する前に面取り・補修をおこなってください。
表面にキズを付けないよう、表面を市販のマスキングテープなどで保護してから面取りしてください。
- 現場の環境によっては「ラスマーク」が発生する可能性があります。

■使用工具一覧

- ・スクリウドライバ
- ・防塵フード付き丸鋸
- ・巻尺
- ・ボードかん
- ・十字ビット(2番)
- ・鋸刃(超硬チップソー)
- ・さしがね
- ・面取りかん
- ・ドライバー
- ・手のこ
- ・コーキングガン
- ・パテ用ヘラ

■使用禁止工具

- ・墨つば
- ・チョークライン

① 下地の確認

- ・ 下地は波打ち・不陸がないように同一面に仕上げてください。
不陸が大きいと施工時にダイライト軒天羽目板が割れる恐れがあります。

建築用鋼製下地材の場合

- ・ 材質 鋼製
- ・ サイズ 25型
- ・ 間隔 303mm以下

- ・ 縦継手はダブル (CW-25) を使用してください。
- ・ 耐風圧設計する場合は、鋼製下地メーカーの施工仕様に従ってください。

木製野縁の場合

- ・ 材質 乾燥材
- ・ サイズ 30×30mm以上
- ・ 間隔 303mm以下

- ・ 縦継手は2本使い又は見付け幅50mm以上の野縁を使用してください。
- ・ 2本使いの場合は継手での目地開き防止のため、2本を緊結してください。

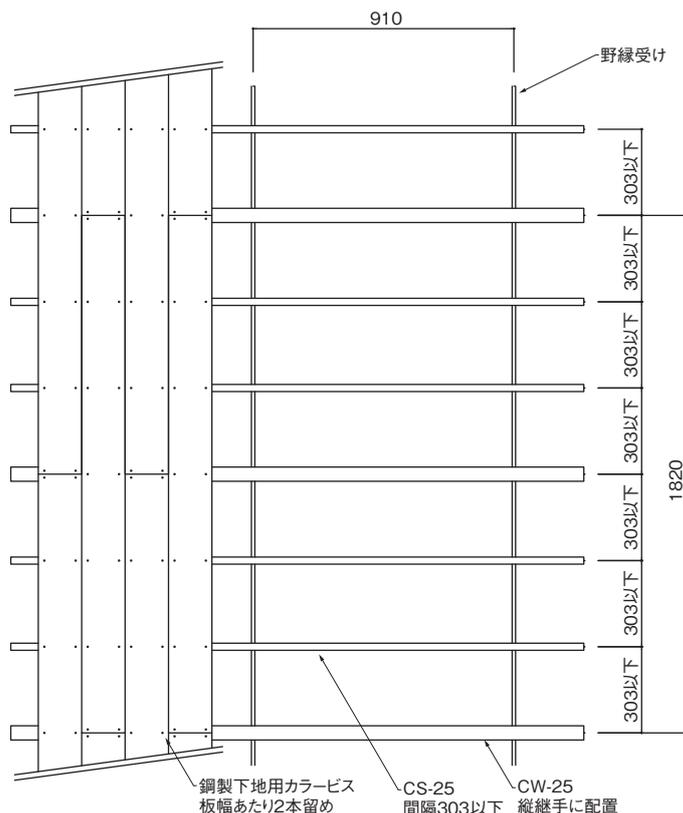


●未乾燥材は使わないでください。



●適宜、吊木等を用いてたわみを防いでください。

[鋼製下地の例]



② 割付け

- ・ 本製品は一枚一枚色柄に特有の変化があります。仮並べなどを行い、色柄のバランスをご確認のうえ、施工してください。
- ・ 耐風圧仕様にする場合の鋼製下地は、鋼製下地メーカーの耐風圧仕様から選択し、設計耐風圧表から適切なビスピッチを選択してください。

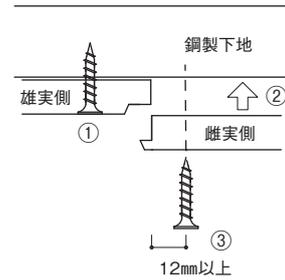
■ 設計耐風圧表

設計耐風圧 [N/m ²]		野縁間隔 [mm]				
		@202	@228	@260	@303	@303<
板幅方向に	ビス2本留め	10787	8331	6406	4717	×
	リング釘2本留め	2701	2405	2146	1887	×

施工方法

③留付け

- ・雄実側を先に施工して、雌実をかぶせるようにして張り進めてください。逆の順序で施工すると、ビス打ち時に板が浮き上がり実が破損、または鋼製下地が曲がる恐れがあります。
- ・あいじゃくり実には若干の調整代があります。数枚施工ごとに位置を確認し、送り量を調整してください。



建築用鋼製下地材の場合

- ・留付け材 鋼製下地用カラービス (P.145参照)
- ・材質 ステンレス製
- ・サイズ $\phi 3.5 \times$ 長さ25mm
- ・間隔 製品幅に対し2本打ち

木製野縁の場合

- ・留付け材 連結リングネイル (P.145参照)
木下地用カラービス (P.145参照)
- ・材質 ステンレス製
- ・サイズ リングネイル: $\phi 2.2 \times$ 長さ40mm
ビス: $\phi 3.8 \times$ 長さ41mm
- ・間隔 製品幅に対し2本打ち



●刃つきのねじ(フレキビス)は使用しないでください。



●留め付けの際は、くぎ頭またはねじ頭が1mm以上めり込まないように注意してください。めり込み過ぎた場合は、近くに増し打ちしてください。

- ・マーキングする場合は、マーキング跡が残らないように工夫してください。施工後に消せない可能性があります。実際には若干の調整代があります。数枚施工ごとに位置を確認し、送り量を調整してください。



●留め付けのへりあき寸法は12mm以上確保してください。ダイライト軒天羽目板が割れる恐れがあります。
●温湿度変化により鋼製下地とダイライト軒天羽目板に寸法変化が起こる可能性があります。収縮側に動く目隙が発生し、伸長側に動くとき突合せがきつくなり波が打っているように見えることがあります。

④コーキングは以下の要領で施工してください。

- ・水が廻り込む恐れのある場合は、軒先・軒元部分へコーキング材を施工してください。
- ・コーキング材は市販品の外装用を使用し、コーキング材メーカーの標準施工法に従ってください。

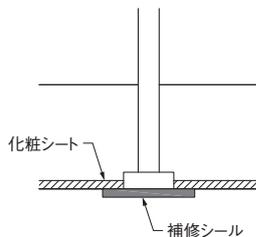
⑤くぎ頭、ねじ頭、傷が目立つ場合・気になる場合は以下の方法で補修してください。

- ・くぎ頭またはねじ頭の補修は、補修シールを使用してください。(頭径が大きく目立つ場合や、めり込みが大きい場合は、必要に応じてパテ埋めしてください)
- ・パテは必ず市販品の外装用を使用し、パテメーカーの標準施工法に従ってください。



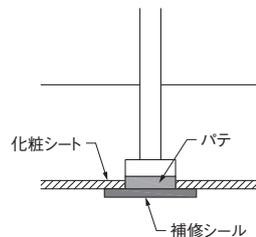
●補修シールを貼る際には、粉塵や汚れを取り除いてから行ってください。また、シール外周部をしっかり押えてダイライト軒天羽目板に密着させてください。補修シールが剥がれる原因となります。

[1]リングくぎ

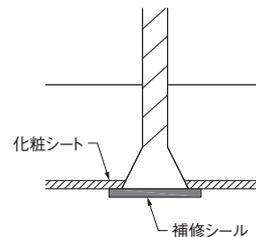


[2]リングくぎ

(めり込みが大きい場合)

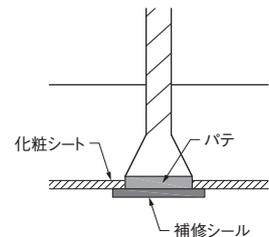


[3]ねじ



[4]ねじ

(めり込みが大きい場合)



⑥ダイライト軒天羽目板の清掃方法については以下の点に注意してください。

- ・施工完了後に、ダイライト軒天羽目板の表面を掃除してください。



●掃除する際は、強くこすったり、水洗い高圧ジェット洗浄、スチーム洗浄はしないでください。表面にシミができる場合があります。